

- 9) ISRAELSON, G. (1942) The Freshwater Florideae of Sweden. Symb. Bot. Upsalienses. 6 (1): 61-76.
- 10) 村上昶代・猪野俊平・大森長朗 (1967) ムカデノリの四分孢子発生について. 藻類 15: 61-67.
- 11) 岡村金太郎 (1936) 日本海藻誌. 内田老鶴圃. 495-497.
- 12) PASCHER, A. and SCHILLER, J. (1925) Die Süßwasser-Flora Deutschlands, Österreichs und Der Schweiz. 206.
- 13) SKUJA, H. (1938) Die Süßwasserrhodophyceen der deutschen Limnologischen Sunda-expedition. Arch. f. Hydrobiol. Suppl. 15: 626-630. pl. 34. f. 1-9.
- 14) SMITH, G.M. (1950) The Fresh-Water Algae of The United States. ed. 2. 19.
- 15) UMEZAKI, I. (1969) The germination of tetraspores of *Hildenbrandia prototypus* Nardo and its life history. Jour. Jap. Bot. 44: 17-28. pl. 5-8.
- 16) 米田勇一 (1949) 美濃国養老村菊水泉の藻類について. 植物研究雑誌 24: 169-175.

□ C.N. SLOBODCHIKOFF ed.: **Concepts of Species**. i-xv+368pp., Benchmark papers in Systematic and Evolutionary Biology V.3, Dowden, Hutchinson & Ross, Inc, Stroudsburg, 1976. (邦貨にして約9,600円)

本書は、今まで発表された数多くの生物の種についての論文から主なものを選んでまとめられたものである。選択された論文は22にのぼるが、それらはただ漫然と収録されたものではなく、種概念の歴史的、哲学的背景と現在の種概念についての編者自身の批判的評価をふまえて収録されたものである。本書は、Part I: Historical and philosophical origin of species concept, Part II: Are species real?, Part III: Microbial, parthenogenetic, and paleontological species, Part IV: Species in higher plant and animals, Part V: Alternative species concept にわけられている。それぞれの part に前置きとして、編者の簡単な comment があるが、そこに編者の立場を伺い知る事ができる。

編者は、現在 Northern Arizona Univ. の Assistant Prof. で、単為生殖を行う wasp (黄バチ) の集団の維持と分化に対する淘汰の効果と、beetle の集団の生態について研究しているが、本書を読む限り、彼は、生物の「種」は淘汰の単位として存在しているとす「selective species concept」の立場をとっているようにみうけられる。

また、本書は「種の問題」について活発に研究を続けてきた専門家の精粹を収録したものであり、それらの論文はいつれも一読に値するものである。「種」の研究において、動物学者、高等植物学者に比べてたちおくれている藻類学者にとって、非常に良い指導の書となるであろう。

(渡辺 信: 東大・応微研)

References

- 1) TSUDA, R.T. and TOBIAS, W.J. (1977) Marine benthic algae from the Northern Mariana Islands, Chlorophyta and Phaeophyta. *Bull. Jap. Soc. Phycol.* **25** (2): 67-72.
- 2) DROUET, F. (1968) Revision of the classification of the Oscillatoriaceae. *Acad. Nat. Sci., Phila. Monog.* **15**: 1-370.
- 3) ————— (1973) Revision of the Nostocaceae with cylindrical trichomes. Hafner Press, N.Y. 1-292.

□ I. A. ABBOTT & G. J. HOLLENBERG: **Marine Algae of California.** xii-827 pp., 701 figs., 5 maps, Stanford Univ. Press, Stanford, California, 1976. 22.30 US \$ (邦貨にして約8,300円)

世界で海藻の生育の最も豊富な地域はオーストラリア・ニュージーランド沿岸、日本沿岸、南アフリカ沿岸、それにカリフォルニア沿岸であるという(本書 p. 7)。上記4地域のうち、わが日本近海海藻については、故岡村金太郎博士の努力で、既に「日本海藻誌(1936)」が完成している。これに対し、カリフォルニア沿岸については SETCHELL, W.A. & GARDNER, N.L.: *The marine algae of the Pacific coast of North America.* 1. Myxophyceae (1919); 2. Chlorophyceae (1920); 3. Melanophyceae (1925) や SMITH, G.M.: *Marine algae of the Monterey Peninsula, California.* (1944); *Supplement* (1969) などの著書があるが、SETCHELL & GARDNER には海藻の大部を占める紅藻類について纏ったものがなく、SMITH の著書は対象とする地域がカリフォルニア州中部に位置するモンレイ半島付近に限られている。今回出版された ABBOTT & HOLLENBERG による本書はカリフォルニア海藻誌とも言うべきもので、採録された種類数は669に及び、この数は1976年までにカリフォルニア沿岸で生育することが記録された海藻の全種類数の約98%に相当する。それぞれ目、科、属、種等には検索表がつけられ、各種類には同定を容易にするため全形または内部構造を示す図が計701添えられている。また必要に応じて生活史についての概略も記述され、引用文献及び用語表の採録用語ともに豊富であり、便利である。

著者の ABBOTT 博士と HOLLENBERG 博士はカリフォルニア大学・パークレイにおいて PAPPENFUSS 教授に、スタンフォード大学において SMITH 教授にそれぞれ藻学の教育を受けた後、共にカリフォルニア州内に職を得、その半生をカリフォルニア沿岸の海藻の分類学的研究に専念してきた研究者である。両博士はこの本を書くのに10年の歳月を費したと言うが、上に述べた経緯を考えると、本書は両博士の終生の労作と言っても差支えない。カリフォルニア沿岸の海藻は種類、植生ともに日本の太平洋沿岸、とくに関東以北の沿岸のそれと共通する点が多い。(筑波大学生物科学系 千原光雄)

anchoring on stones mostly in the shade areas in the river of Bizenbori.

According to our observation, they seemed to grow in the period from fall to next early summer. The plant in well developed stages became about 100 cm or more in length and about 1.7 mm in thickness. It was very much similar to *T. okadai* in many respects, such as the habitat and the external and internal structure. However, the present alga differs slightly from it in having longer and slenderer assimilatory filaments with more frequent branches. Whether the difference is genetical or due to difference in environmental conditions is now under study.

文 献

- 1) BISCHOFF H. W. (1965) *Thorea riekei* sp. nov. and related species. J. Phycol. 1: 111-117.
- 2) 森 通保 (1955) 淡水産紅藻二種の新産地。藻類 3: 44-46.
- 3) YAMADA Y. (1949) On the species of *Thorea* from Far Eastern Asia. Journ. Jap. Bot. 24: 155-158.
- 4) 山田幸男 (1949) 東亜産チスジノリに就て。Bot. Mag. Tokyo 62: 18.

□ T. LEVRING, H. A. HOPPE and O. J. SCHMID: **Marine Algae**. i-v+421 pp+iii, 写真43葉, Cram de Gruyter, Hamburg, 1969. (邦価にして約1万7千円)。

本書は雑誌 *Botanica Marina* の発行所から, *Botanica Marina Handbooks* の Vol. I として出版された。副題の“A Survey of Research and Utilization”からもわかるように, 人間の利用に資するためとの考えの下に編まれたものである。この点理学的な藻類学書とはねらいが異っているので, 少々発行年から時が経たけれども紹介する。

内容は次の項目と執筆者とからなる: 海の植生, LEVRING; 藻類の分類, LEVRING; 原料としての海藻, HOPPE; 商業(産業)上の産物, HOPPE and SCHMID; その他の物質, SCHMID. なお, 巻末に藻類学上および利用上の全般的参考文献(49個)が列挙してある。その内で邦人のものとしては, ARAKI ('59), MIYABE ('57), SEGAWA (図鑑), TOKIDA ('54) が数えられる。

基本目標から考えて, 本書の特色は第3~5章にあらう。これらの章は, 以前同じ著者らが *Botanica Marina* あるいはその Supplement で扱ったいくつかの総説の集大成である。引用文献は, 第3章では, 個々の種ごとにあげてあって便利である。またこの章に述べられている種には産業種だけでなく, 単に化学分析されたのみのものも多い。従って目的により極めて有効に使いうる章であるといえる。引用文献の著者索引があればなおよかったと思う。

(赤塚伊三武)